

開高健読書会だより

【第60回読書会】2021年2月21日(日) 10名参加(含紙上参加)

テーマは「怪物と爪楊枝」(初出1979/1「野生時代」 開高48歳、収録:「開高健全集第9巻」等) 内容は怪物のような容姿を持つが戦闘では果敢に先頭に立ち、部下の面倒見も良く、知力と教養も備え人々に畏敬・信従されており、筆者にとって気になる存在で魅力を覚えるようになった「醜怪・暗鬱・孤独」の謎のベトナム空軍将軍バウは戦闘で重症を負い引退を余儀なくされた。入院中の彼から、以降は爪楊枝生産が希望で日本メーカーの紹介要請があり、病室での様子からピアノ趣味や漫画本好きの事実が判明。意外な結末、落差がポイントの短編。豊富な語彙と巧みな描写表現、話の進め方の素晴らしさについて論議。

【第61回読書会】2021年3月27日(土) 10名参加(含紙上参加)

テーマは「洗面器の唄」(初出1979/1「新潮」 開高48歳、収録:「開高健全集第9巻」等) 内容は詩人金子光晴の「洗面器の唄」にテーマを得て、ベトナムで体験した洗面器の様々な使い方について戦争体験を絡めて描き、戦争が日常であることを示すとともに戦争の残酷さを痛感させるエッセイ的短編小説。最終部、生死を分かたずジャングルでの激戦中に、若い兵士が洗面器から飯を口に運ぶ姿について色々な観点から論議があった。

【第62回読書会】2021年4月25日(日) 10名参加(含紙上参加)

テーマは「名人」(初出1960/5「オール讀物」 開高29歳、収録:「開高健全集第4巻」等) 内容はおしゃれ姿で趣味の釣りに出かける等、謎の多いアパートの大家の老人は実はスリで、アパートもスリの金で建てた。ある日、電車内で若い娘の同業初心者を発見、「デカがいる」と囁き助ける。二人は一日中遊び回り、娘にせがれるまま、終電車内でスリを実行、老人はまんまと捕まえられるという短編小説。すらすら読み進められ良く出来たエンタメ作品との評価のほか「名人」は誰か、など「スリ」論議で盛り上がった。

【第63回読書会】2021年5月23日(日) 11名参加(含紙上参加)

テーマは「お化けたち」(初出1960/4「新潮」 開高29歳、収録:「開高健全集第4巻」等) 内容は敗戦直後の混乱期、開高の苦学生時代が題材の短編。主人公の学生(おれ)が友人・田辺からの紹介で、鉈で薬草を細かく刻むだけの単純作業の漢方薬作りアルバイトに二人で行き、一緒に作業する男性老人達、別作業のおばはん達、雇主的男性社長、寮の仲間等の言動、情景、絡み合いと共に主人公の苦悩と希望を描く。「お化けたち」とは何か、主人公(開高)の苦悩について論議が盛り上がった。

【第64回読書会】2021年6月27日(日) 11名参加(含紙上参加)

テーマは「ユーモレスク」(初出1960/7「新潮」 開高29歳、収録:「開高健全集第5巻」等) 芥川賞受賞後、人気作家となり更には中国訪問等多忙を極めていた時期の作品。内容は主人公の「私」は「柳原氏」という財産家でらしいが借金をして踏み倒すのが趣味で「センミツ屋」と呼ばれているお洒落で教養豊かな美術書専門の洋書輸入業者の謎めいた行動に翻弄され、最後は白旗を上げて降参する滑稽味を帯びた交際を描いた「軽み」のある短編。題名の「ユーモレスク」及び登場人物の「私」「柳原氏」についてあれこれと論議があった。

【第65回読書会】2021年7月18日(日) 12名参加(含紙上参加)

テーマは「無邪気」(初出1959/12「別冊文藝春秋」 開高28歳、収録:「開高健全集第4巻」等) 内容は、「東京から関西に赴任してきた真面目な大学英文科の「山崎先生」と「殿様」とあだ名される英語が全くダメ

な学業劣等生だが親の影響で「川柳」と「狂歌」に親しみ、希少な文献を山ほど持っている学生との交流、絡み合いを描いた短編。二人の共通項目は「川柳」「狂歌」で、大学内の研究会を通じて親しくなり、「山崎先生」は「殿様」が蒐集した「柳多留」「末摘花」や更には「写真」「版画」「春本」等を見せてもらうなど解説を受ける間柄となる。終盤ではとうとう二人は「エロ処」に出かけ「御開帳鑑賞」することになるという「落ち」で幕となる。「無邪気」について様々な意見交換がなされ、開高健記念会坪松様からも解説があった。

【第66回読書会】2021年8月22日(日) 11名参加(含紙上参加)

テーマは「睦雄の経験」(初出1959/12「婦人の友」 開高28歳、収録:「開高健全集第4巻」等) 内容は、主人公睦雄は仏文学が大好きな東大生で父親を早く亡くし苦しい生活を送り、毎日各種バイトを行っており、もうひとりの主人公光子は女子大生で、いたずらっぽくキラキラ光る瞳を持ち豆狸のように可愛らしく、酒は強く、ランポーの過激な詩を好む。睦雄は彼女と出会い、一目惚れ、魅せられ参ってしまい、彼女も睦雄に集中攻撃、ある夜、二人は関係を持ち、翌朝、彼女に完全に征服されてしまった運命を睦雄は自覚、その一生を見通すことになるという短編。評価は、軽妙で面白い、いや駄作だと議論伯仲、盛り上がる。

(文責 植田浩吉)

〈開高健作品読書会へのお誘い〉

コロナ感染症を考慮し対面式による開催は見合わせ、オンライン読書会(ZOOM使用)を開催中です。

日時/月1回程度

時間/2時間30分程度(開催日、時刻は毎回決定)

内容/毎回とりあげた開高健作品について感想をざっくばらんに話し合う楽しいひと時です。ご自由にご参加ください。

※ご参加ご希望の方は

読書会担当・吉村(mail:naokiy@m3.kcn.ne.jp)まで

茅ヶ崎市開高健記念館(神奈川県) イベント情報

作家開高健の業績や人となりにもふれていただくことを目的に邸宅を茅ヶ崎市開高健記念館として開設。書斎は往時のままに、展示コーナーでは、期間をさだめてテーマを設定し、原稿や愛用の品々を展示しています。令和4年10/28(金)から令和5年3/26(日)まで展示テーマ「ロッド片手に世界を駆ける」を開催中です。展示テーマ詳細は、公益財団法人開高健記念会サイト(<https://www.kaiko.jp>)をご覧ください。



出所:開高健記念会HP

●茅ヶ崎市開高健記念館

〒253-0054 神奈川県茅ヶ崎市東海岸南6-6-64

Tel& Fax / 0467-87-0567

開館日/毎週金・土・日曜日、祝祭日 閉館日/年末年始

開館時間/午前10時～午後4時30分 ※入館は閉館の30分前まで

入館料/200円(開高健記念館と茅ヶ崎ゆかりの人物館共通券は300円)



Ken Kaiko

開高健関西悠々会

□設立呼びかけ人

難波利三、眉村卓、玉岡かおる(以上作家)、藤本統紀子(シャンソン歌手、エッセイスト)、コシノヒロコ(ファッションデザイナー)、小林哲也(近畿日本鉄道取締役)、山中諄(南海電気鉄道特別顧問)、鳥井信吾(サントリーホールディングス代表取締役副会長)、寺田千代乃(アートコーポレーション社長)、山本壯太(古典の日推進委員会ゼネラルマネージャー)、西澤良記(公立大学法人大阪理事長)、作花清夫(京都大学名誉教授・天中五十期会会長)
(敬称略・順不同)

□お申込み・お問合せ

開高健関西悠々会 事務局

mail:kansaikai@gmail.com

fax:06-6605-2088

〒558-8585

大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪公立大学 有恒会内